

# あおもりの農林水産業

The Agriculture, Forestry and Fisheries of Aomori Prefecture



令和5年4月 青森県

# 地域の特産品



## 凡例

### 農産物



りんご



ながいも



にんにく



かぼちゃ



ごぼう



かぶ



トマト



だいこん



さくらんぼ



じゃがいも



スイカ



西洋なし



メロン



米



キク



にんじん



アスパラガス



カシス



ぶどう

### 畜産物



肉用牛



生乳



ブロイラー



鶏卵



豚

# CONTENTS

## 地域の特産品



### 林産物



ヒバ、スギ、アカマツ

### 水産物



スルメイカ

シジミ

コンブ・ワカメ

サバ

ホタテガイ

ヤリイカ

メバル

サケ・マス

カレイ・ヒラメ

イワシ

<b>1 「攻めの農林水産業」の推進</b> .....	1
◎「攻めの農林水産業」とは？ .....	1
<b>2 令和4年度の主な取組</b> .....	2
Ⅰ 消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開 .....	2
Ⅱ 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産 .....	3
Ⅲ 山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全 .....	4
Ⅳ 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり .....	5
Ⅴ 農林水産業の成長と共生社会を支える人材育成 .....	6
<b>3 農林水産業の姿</b> .....	7
<b>4 農林水産業の担い手</b> .....	9
◎農業の担い手 .....	9
◎林業の担い手 .....	10
◎水産業の担い手 .....	11
<b>5 農業</b> .....	12
◎農地の動き .....	12
◎農業生産基盤・農村環境づくり .....	13
◎農産物の生産と流通 .....	14
①米 .....	14
②畑作物 .....	15
③野菜 .....	16
④花き .....	17
⑤りんご .....	18
⑥特産果樹 .....	19
⑦畜産物 .....	20
<b>6 林業</b> .....	21
◎木材生産 .....	21
◎森づくり .....	22
◎特産林産物（きのこ・山菜） .....	22
<b>7 水産業</b> .....	23
◎漁業生産 .....	23
◎資源管理 .....	24
◎つくり育てる漁業 .....	25
◎漁港・漁場づくり .....	26
<b>8 安全・安心なおもり産品づくり</b> .....	27
◎「日本一健康な土づくり運動」の推進 .....	27
<b>9 農林水産物の販売戦略</b> .....	29
◎流通販売 .....	29
◎商品づくり .....	30
◎地産地消 .....	31
<b>10 農林水産業と商工業の連携強化</b> .....	32
<b>11 地方独立行政法人青森県産業技術センターの取組</b> .....	33
<b>12 Webによる情報提供</b> .....	34
◎青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」 .....	34
◎農林水産業関係のWebサイト .....	34
<b>13 農林水産業の普及指導拠点</b> .....	35
<b>14 令和4年度トピックス</b> .....	36

# 1 「攻めの農林水産業」の推進

## 「攻めの農林水産業」とは？

青森県の農林水産業は、全国トップの生産量を誇るりんご、にんにく、ごぼうをはじめ、多様で豊富な農林水産物を有し、地域経済を支える基幹産業となっています。

「攻めの農林水産業」は、夏季冷涼な気候、緑豊かな森林、三方を囲む海など、恵まれた地域特性を生かし、未来につながる「水」「土」「人」の3つの基盤づくりを進めながら、「消費者起点」に立った安全・安心で高品質な農林水産物やその加工品を生産し、強力で売り込んでいくという販売を重視する振興策です。

第4期「攻めの農林水産業」推進基本方針（実施期間2019年～2023年度）では、人口減少・高齢化の進行や経済のグローバル化の進展など、社会経済環境の変化に対応しながら、農林水産業の持続的成長と共生社会の実現を目指し、収益力強化のための「産業政策」と、共助・共存の農山漁村づくりに向けた「地域政策」を好循環させる施策を5つの柱に基づいて展開していきます。

### 基本理念

### 取り巻く環境の変化

### 施策体系「5つの柱」

#### 消費者起点



- 人口の減少・高齢化の進行
- 経済のグローバル化の進展
- 世界における食関連市場の拡大
- 消費構造やニーズの変化
- 高度情報化と技術革新の進展
- 農山漁村への新しいひとの流れ
- 様々な危機事象の発生
- SDGsの理念を踏まえた施策の展開

#### 1 消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開

販売力強化

- ①本県ならではのブランド価値の高い商品や商品の創出
- ②国内外市場における成長分野等への販路開拓
- ③ターゲットに応じた多彩な情報発信・拡散による青森県産ブランドの浸透
- ④信頼構築の基礎となる地産地消の推進
- ⑤付加価値の増大に向けた食品産業の強化

### 施策の展開方向

#### 農林水産業の収益力強化

生産性向上や、販売強化、交流人口の拡大、新たなビジネス創出などを図るためのイノベーションを起こし、そこで生まれた収入を地域経済の中で回す。



地域の共助・共存が経済成長を支え 経済的基盤に裏打ちされた地域づくり

#### 共助・共存の農山漁村づくり

集落を支える多様な経営体の育成のほか、労働力不足や、コミュニティ機能の維持等、地域課題に取り組むソーシャルビジネスの創出等により共助・共存の仕組みをつくる。



#### 2 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産

生産力向上

- ①国内外の競争を勝ち抜く産地力強化
- ②労働力不足に対応した生産体制の強化
- ③安全・安心を強みとした信頼される産地づくり
- ④労働負担軽減や気候変動に対応した研究開発の推進

#### 3 山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全

環境・生産基盤保全

- ①農林水産業の基盤となる「安全・安心な水資源」の確保
- ②豊かな地域資源を未来に引き継ぐ環境公共の推進

#### 4 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり

農山漁村振興

- ①人口減少・超高齢社会を支える仕組みづくり
- ②農泊を中心としたグリーン・ツーリズムの推進
- ③多様な分野との連携・協働による地域の活性化

#### 5 農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成

人財育成

- ①高い経営力を持った人財の育成
- ②青森県型地域共生社会を支える人財の育成
- ③農山漁村女性の活躍促進
- ④生産基盤の有効活用と組織の体質強化

# 2 令和4年度の主な取組

## I 消費動向の変化を見据えた販売戦略の展開

### 新たなブランド商品の育成

#### 取組概要

「ジュノハート」や「青い森紅サーモン」、「青森きくらげ」について、生産者や流通業者、研究機関、行政等が連携して生産・販売体制を整備するとともに、首都圏の百貨店等や、品目に応じた各種メディアでの情報発信・PR活動を展開しました。



伊勢丹新宿店における「ジュノハート」のPR



県内スーパーにおける「青い森紅サーモン」のPR



チラシや動画による「青森きくらげ」の食べ方提案

### 県産米新品種「はれわたりに」のデビュー

#### 取組概要

県産米新品種「はれわたりに」の令和5年産での全国デビューに向けて、キービジュアルデザインを制作・発表したほか、県内限定で先行販売し、店頭での知事トップセールスやプレゼントキャンペーンなどを実施しました。

また、良食味・高品質米の安定生産に向けて、指導力向上を図る研修会を開催するなど、生産指導体制の整備に取り組みました。



キービジュアルデザイン発表



県内先行販売日の知事トップセールス



### 冷凍食品産業の振興

#### 取組概要

冷凍食品市場が拡大し、国産の原材料に対するニーズが高まっていることから、県産農林水産物を産地で冷凍する高品質な冷凍野菜等の商品開発や、加工事業者が取り組む冷凍の惣菜・スイーツ等の商品化を支援しました。



商品化した冷凍野菜

## Ⅱ 労働力不足の克服と安全・安心・高品質生産

### 労働力不足の克服

#### 取組概要

##### 1 労働力の確保

多様な農業労働力を確保するため、企業を対象とした農作業体験会の開催や通年でのマッチングを推進し、補助労働力の掘り起こしに取り組んだほか、若者を中心とした「常雇い」や外国人材の安定確保に向けた支援に取り組みました。



企業従業員向けの農作業体験会（ねぎ調整）

##### 2 省力・低コスト化の推進

民間企業等と連携し、本県に適した「スマート農業」技術の開発を促進するとともに、普及拡大に向けた現地実証や人材育成に取り組みました。

また、りんごの生産効率を高める観点から、剪定枝収集機や肥料散布機など農業機械の導入効果を検証するとともに、高密度植わい化栽培をはじめとする省力樹形について収益性の調査などに取り組みました。



農業用ドローンの操作実習



りんごの高密度植わい化栽培



アシストスーツによる軽労化作業

### にんにく新品種「あおもりふくゆき青森福雪」の普及に向けた取組

#### 取組概要

県産業技術センターが育成したにんにく新品種の名称を庁内公募し、青森県在来種の福地ホワイトから選抜した品種で雪のように白いことを表現した「青森福雪」に決定・発表しました。

また、県、農業団体、民間企業、関係市場、研究機関で構成する「青森県にんにく新品種『青森福雪』普及推進協議会」を設置したほか、現地技術実証ほにおいて新品種の特性把握を行いました。



新品種「青森福雪」



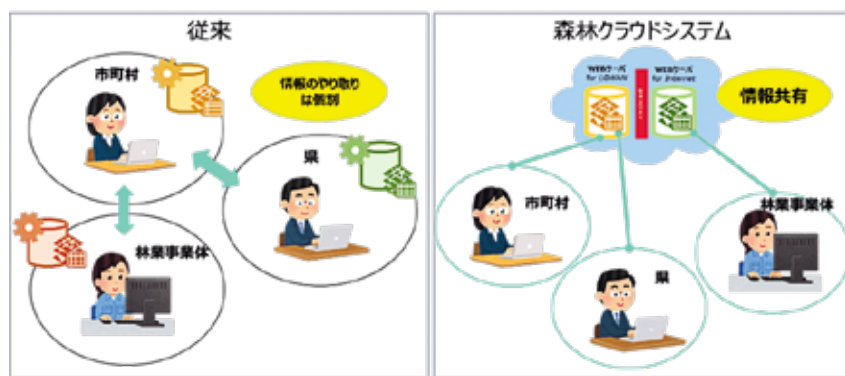
新品種現地技術実証ほでの検討

## Ⅲ 山・川・海をつなぐ「水循環システム」の再生・保全

### スマート林業の推進

#### 取組概要

林業分野において、地理空間情報等の先端技術を活用し、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた木材生産を可能とする「スマート林業」の取組が全国的に進んでおり、本県においても、県や市町村が個々に管理・保有している森林情報を林業事業者等と共有し相互に利用できる森林クラウドシステムの構築や、航空レーザ計測による森林資源解析を実施したほか、スマート林業機械等の導入を支援しました。



森林クラウドシステム



多目的造林機械

### 水田を活用した流域治水対策

#### 取組概要

豪雨等に伴う洪水被害を軽減するため、農村地域の水田や農業用ため池が持つ雨水貯留機能の効果検証を行うとともに、周辺の農地・集落や下流域の浸水被害リスクの低減を図る「田んぼダム」の取組を農業者等の関係者と一体になって推進しました。



実証試験ほ場での現地説明会

### 沿岸から沖合までの一体的かつ広域的な漁場整備

#### 取組概要

水産資源の増大に向け、魚類の産卵や稚魚の生息場所となる藻場をはじめ、幼魚の育成場、成魚の漁獲場所となる魚礁漁場を、沿岸から沖合まで一体的かつ広域的に整備する取組を進めました。



育成場集まるウスメバル

## Ⅳ 連携・協働・交流による活力ある農山漁村づくり

### 農福連携の取組拡大や農山漁村女性のネットワークを生かした地域づくりの促進

#### 取組概要

農業側・福祉側の関係者が一堂に会する「青森県農福連携推進会議」を開催し、農福連携に踏み出しやすい環境の整備を進めました。加えて試行的に障がい者へ農作業を委託する「チャレンジ農福」の実施や「ノウフクJAS」取得に向けたセミナーの開催、特別支援学校教員と農業者の交流会による農福ニーズをつなぐ人材の育成などに取り組みました。

また、地域の活性化を図るため、加工品づくりや体験交流、農家民宿などに取り組む女性起業家を支援するとともに、起業活動に関心のある若手農村女性の育成に取り組みました。



特別支援学校教員と  
農業者の交流会

### 農山漁村地域への誘客拡大

#### 取組概要

国内外からの一般旅行客の誘客拡大を図るため、本県ならではの体験メニュー等を取り入れた「あおもり型グリーン・ツーリズム」のウェブによる情報発信等を行うとともに、教育旅行対策として、国内の旅行エージェント等の招請のほか、台湾の学校等との相互交流や訪問によるプロモーションを実施しました。

また、漁村のにぎわいを創出するため、漁港内の増養殖場や藻場を活用した漁業体験プログラム開発に取り組みました。



あおもり型グリーン・ツーリズム  
体験メニュー紹介ページ



魚のさばき体験

### 農林漁業を基盤とした豊かな地域社会づくりの推進

#### 取組概要

弘前市の「農事組合法人しみず」では、地域ぐるみで生産体制の強化や遊休農地の再生に取り組んでいるほか、農業機械等を活用した除雪や、地元の名所「久渡寺」での交流イベントの開催など、コミュニティの活性化に貢献する活動を行っています。

こうした活動が評価され、令和4年度豊かなむらづくり全国表彰事業において、農林水産大臣賞（東北ブロック最優秀事例）を受賞しました。



豊かなむらづくり表彰式の様子



## V 農林水産業の成長と共生社会を支える人財育成

### 非農家出身の新規就農者の定着支援

#### 取組概要

#### 1 非農家出身者の再チャレンジ支援

近年、非農家出身の新規就農者が増加しているものの、経営基盤が脆弱であるため、所得水準が低い状況にあります。

このため、就農3～6年目の非農家出身者を対象に、経営改善を後押しすることとし、大雨により被災したいちご選果施設の復旧や、ミニトマト生産規模拡大のための自動かん水施設整備など、再チャレンジに要する経費を補助事業により支援しました。



浸水した選果施設



高台に新設し作業効率も向上した選果施設

#### 2 青森県新規就農メンターの派遣

非農家出身で優れた経営を実践している先輩農業者を「新規就農メンター」として認定の上、就農希望者及び新規就農者へ派遣し、就農時の体験談や独立就農時の留意点などについてアドバイスを行いました。



メンターの派遣

#### 3 第三者承継の推進

親族以外の者が後継者となり新規就農する第三者承継を広く県内に波及・定着させるため、モデルの確立に向けた県外専門家の伴走支援のほか、研修会等の開催による機運醸成や地元サポート人財の育成に取り組みました。



第三者承継した就農者（夏秋いちご）

### 「青い森林業アカデミー」の運営

#### 取組概要

本県の森林資源が本格的な利用期を迎える中、林業の現場で必要となる知識や技術を習得し、将来的に地域林業の中核を担う現場技術者を育成する研修として、令和3年4月に「青い森林業アカデミー」を開講しました。令和4年度は7名の研修生が修了しています。

また、高校教諭対象の参観デーや一般向けオープンキャンパス、林業の仕事体験会などを開催しました。



研修の様子

# 3 農林水産業の姿

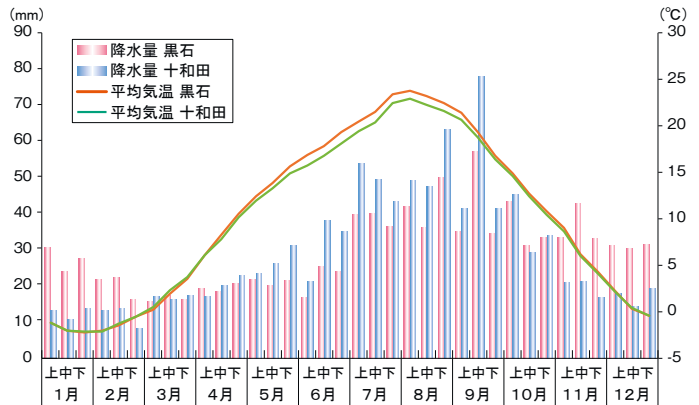
## 土地利用と気象

- 本県は県土のうち農地面積が15%、森林面積が66%を占める緑豊かな県です。
- 気象は、四季がはっきりしており、複雑な地形や海流の影響により、地域によって大きな差があります。
- 日本海側に位置している津軽地域は、夏は比較的好天に恵られますが、冬は大陸からの冷たい季節風の影響により雪が多く降ります。
- 太平洋側に位置している県南地域は、オホーツク海に発達する高気圧の影響により、春の終わりから夏にかけて冷たいヤマセ（偏東風）が吹きますが、冬は晴天の日が多く雪が少なくなっています。

### ■土地利用（令和4年）

土地面積	964,595	(100%)
農地	149,300	(15%)
森林	634,387	(66%)
その他	180,908	(19%)

出典：全国都道府県市町村別面積調、作物統計調査、青森県森林資源統計書

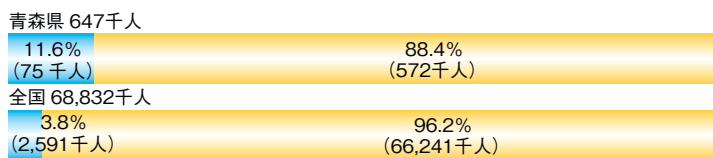


出典：アメダス（平年値）

## 本県経済の中での位置付け

- 令和元年度の本県の全産業の就業人口に占める農林漁業人口の割合は11.6%と全国平均の3.8%に比べ高い水準となっています。
- 令和元年度の県内総生産に占める農林水産業の割合は4.5%で、うち農業は3.7%、林業は0.1%、水産業は0.7%となっています。
- 令和3年の本県の農業産出額は3,277億円で、全国で第7位、東北で第1位（18年連続）となっています。

### ■就業人口に占める農林漁業人口の割合（令和元年度）



出典：青森県県民経済計算、国民経済計算

### ■県内総生産（令和元年度）

区分	生産額（名目）
県全体	45,332 (100.0)
農林水産業	2,031 (4.5)
農業	1,697 (3.7)
林業	34 (0.1)
水産業	301 (0.7)

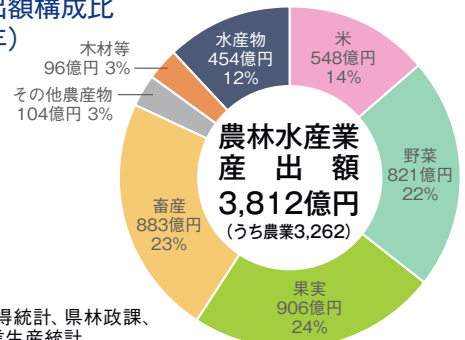
( ) 内は構成比率 (%) 出典：青森県県民経済計算

### ■農業産出額及び食料品・飲料等製造業の出荷額

区分	農業産出額	食料品・飲料等製造業の出荷額
平成2年	3,270	4,691
7	3,193	4,547
12	2,648	3,921
17	2,797	3,506
22	2,751	3,941
27	3,068	4,543
30	3,222	4,912
令和元年	3,138	4,872
2	3,262	5,064
3	3,277	—

出典：生産農業所得統計、青森県の工業

### ■本県の産出額構成比（令和2年）



出典：生産農業所得統計、県林政課、漁業・養殖業生産統計

※端数処理のため、100%にはなりません

## 農林水産業の生産概要

- 県内では、「青天の霹靂」をはじめとする米や、全国の生産量の約6割を占めるりんご、全国一の生産量を誇るにんにく、ごぼうなどの野菜のほか、様々な畜産物などの生産が行われ、多様な農業が各地で展開されています。
- 農業産出額は、果実、畜産物、野菜、米の順で多く、果実は全国第1位、野菜は東北一です。
- 木材の県内生産量は全国第7位の約1,091千㎡となっており、戦後に植林したスギが本格的に利用可能な時期を迎えています。
- 海面漁業・養殖業の総生産量は全国で第6位、総産出額は第8位となっています。

### ■農産物（令和3年）

区分	作付面積	生産量	産出額
米	41,700ha	256,900t	389億円
りんご	20,400	415,700	1,027
特産果樹	—	—	67
野菜	14,943	394,255*	770
花き	82	13,728* (千本、千鉢)	17
工芸作物	—	—	31
その他	—	—	29
計			2,330

出典：農林水産省統計より作成。花きは県農産園芸課  
※野菜（いも類含む）の作付面積、生産量は主要26品目※花きの生産量は出荷量

### ■畜産物（令和4年2月1日現在）

区分	飼養頭羽数	産出額（3年）
乳用牛	12,200頭	88億円
肉用牛	54,600頭	161
豚	358,600頭	221
鶏	4,650千羽（採卵鶏：成鶏めす） 8,058千羽（ブロイラー）	450
その他	—	27
計	—	947

出典：畜産統計、生産農業所得統計

### ■林産物（令和2年）

区分	生産量	産出額
木材	1,091千㎡	92億円
きのこ	482t	2
その他林産物	—	2
計	—	96

出典：青森県特用林産物生産調査、木材需給報告書、県林政課

### ■水産物（海面）（令和2年属人）

区分	生産量（漁獲量+収穫量）	産出額（漁業+養殖業）
ホタテガイ	80,735 t	102億円
イワシ類	26,195	11
イカ類	18,557	109
サバ類	13,834	18
タラ類	5,076	9
その他	28,094	205
計	172,491	454

出典：漁業・養殖業生産統計

### 農業の全国ランキング

1	りんごの生産量	第1位	3年
2	にんにくの生産量	第1位	3年
3	ごぼうの生産量	第1位	3年
4	採卵鶏の1戸当たりの飼養羽数	第1位	4年
5	豚の1戸当たりの飼養頭数	第2位	4年
6	ながいもの生産量	第2位	3年
7	西洋なしの生産量	第3位	3年
8	だいこんの生産量	第3位	3年
9	かぶの生産量	第3位	3年
10	食料自給率（生産額ベース）	第3位	2年
11	たばこ耕作面積	第4位	3年
12	牧草地面積	第4位	2年
13	食料自給率（カロリーベース）	第4位	2年
14	耕地面積	第4位	3年
15	にんじんの生産量	第4位	3年
16	さくらんぼの生産量	第4位	2年
17	ブロイラーの飼養羽数	第5位	3年
18	メロンの生産量	第5位	3年
19	ばれいしょの生産量	第8位	3年
20	ピーマンの生産量	第8位	3年
21	ねぎの生産量	第10位	3年

### 林業の全国ランキング

1	ヒバ蓄積量	第1位	29年
2	スギ人工林面積	第4位	29年
3	素材（丸太）生産量	第7位	元年
4	森林面積	第9位	29年

### 水産業の全国ランキング（令和2年）

1	アカイカの漁獲量	第1位
2	スルメイカの漁獲量	第1位
3	クロマグロの漁獲量	第1位
4	シラウオの漁獲量	第1位
5	ワカサギの漁獲量	第1位
6	コイの漁獲量	第1位
7	ウグイ・オイカワの漁獲量	第1位
8	ホタテガイの生産量	第2位
9	シジミの漁獲量	第2位
10	コンブ類の漁獲量	第2位
11	サケ・マス類の漁獲量	第2位
12	ヒラメの漁獲量	第2位
13	ウニの漁獲量	第4位

# 4 農林水産業の担い手

## 現 状

- 本格的な人口減少社会を迎え、今後5年程度で多くの農林漁業者がリタイアすることが予想されます。
- 本県は基幹的農業従事者の平均年齢が全国で2番目に若く、平成24年度以降は新規就農者数も高い水準を維持しています。

## 最近の特徴的な取組

- 若手農業トップランナー塾や若い森林業アカデミー、資陽塾など意欲あふれる人財の育成
- 農山漁村の「地域経営」を担う人財育成の推進とサポート体制の充実・強化
- 女性起業家のネットワーク化による経営力向上と男女共同参画の推進

## 今後の推進方向

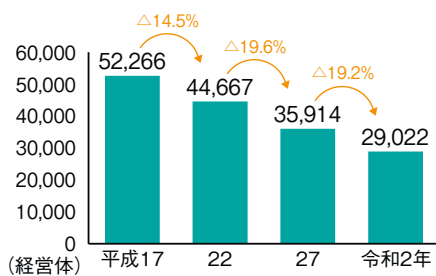
### <多様な経営体の育成>

- 高い経営力を持った人財の育成
- 人口減少社会を見据えた「地域経営」の仕組みづくり
- 地域を支える生産基盤の有効活用と組織の体質強化
- 農山漁村の女性が活躍できる環境づくりの推進

## 農業の担い手

- 令和2年の農業経営体数は29,022経営体で、平成27年と比べ6,892経営体(19.2%)減少しています。
- 一方、株式会社や合同会社といった法人経営体が増加しているほか、経営耕地面積では20ha以上、販売金額では1,000万円以上の経営体は増加しています。
- また、基幹的農業従事者数は48,083人で、平均年齢は65.4歳となっています。高齢化が進行する中で、本県の平均年齢は、全国平均の67.8歳を約3歳下回り、都道府県別では北海道に次いで2番目に低くなっています。

### ■農業経営体数の推移



### ■農業経営体の構成

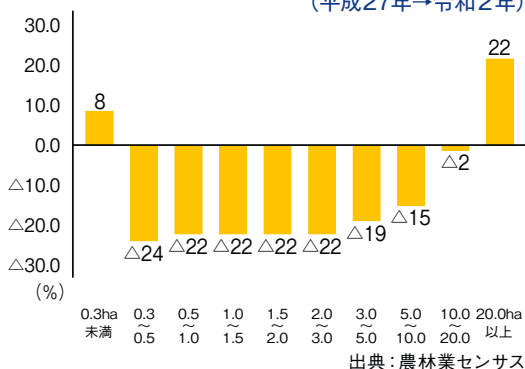
単位：経営体

区 分	農 業 経営体	農 業 経営体		
		個人経営体	団体経営体	うち法人
令和2年	29,022	28,232	790	646
平成27年	35,914	35,037	877	524
増減数	△6,892	△6,805	△87	122
増減率(%)	△19.2%	△19.4%	△9.9%	23.3%

出典：農林業センサス

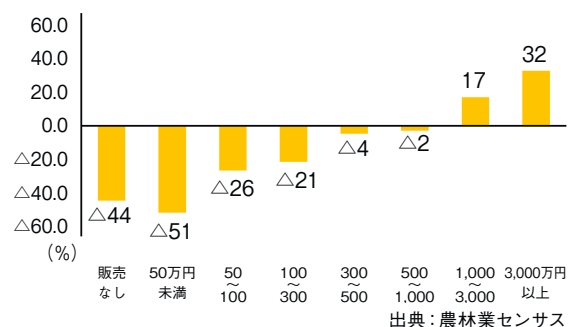
### ■経営耕地面積規模別農業経営体数の増減率

(平成27年→令和2年)



### ■農産物販売金額規模別農業経営体数の増減率

(平成27年→令和2年)



## ■ 基幹的農業従事者数及び平均年齢（令和2年）

区分	合計	男性	女性	15～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	平均年齢
青森県	48,083	26,576	21,507	6,391	6,255	6,111	29,326	65.4歳
全国	1,363,038	822,144	540,894	147,468	126,902	140,047	948,621	67.8歳
青森県割合	100.0%	55.3%	44.7%	13.3%	13.0%	12.7%	61.0%	
全国割合	100.0%	60.3%	39.7%	10.8%	9.3%	10.3%	69.6%	
全国差(ポイント)		△5.0	5.0	2.5	3.7	2.4	△8.6	

出典：農林業センサス

## 農業を学ぶ若者たち

- 県内には農業を学べる高校が4校あります。
- 青森県営農大（七戸町）では、高校を卒業した方などを対象に、農業経営者を養成するため2年間の教育を行っています。



営農大（七戸町）オープンキャンパス

## がんばる農業者たち

- |            |   |
|------------|---|
| 経営改善への取組   | ● 生産・販売面の工夫など積極的な経営改善への取組が増加してきています。<br>● 農業生産法人を設立して企業的な経営に取り組む経営者が増えています。 |
| 女性の能力発揮    | ● 女性が農業生産や加工品づくり、直売活動など多くの分野で活躍しています。                                       |
| 高齢者の活躍     | ● 野菜や花づくりなどの場面で生き生きと働く人が多くなっています。   |
| 企業等からの農業参入 | ● 株式会社等が農地をリースすることなどで農業経営へ参入することが可能になり、新たな農業の担い手として期待されています。                |

## あおもりの農業のけん引者たち

- |                                   |                     |   |                |
|-----------------------------------|---------------------|---|----------------|
| 認定農業者                             | 令和3年3月末 9,065名      | 農業経営士   | 令和4年12月末 124名  |
| ● 地域農業の担い手として経営改善に取り組んでいます。       |                     | ● 地域リーダーとしての経営指導や農業実習の受入れなどの担い手養成を行っています。     |                |
| 生活研究グループ                          | 令和4年4月 48グループ 147名  | ViC・ウーマン                                      | 令和4年4月 234名    |
| ● 農山漁村女性による情報交換、研修会、講演会などを行っています。 |                     | ● 女性による特色ある地域農林水産業の推進や住みよい地域づくり、社会参画等を進めています。 |                |
| 農村青少年クラブ（4Hクラブ）                   | 令和4年12月末 11クラブ 112名 | 若手農業トップランナー                                   | 令和4年12月末 248組  |
| ● 将来の担い手として技術の向上や交流を行っています。       |                     | ● 経営力やマーケティング力の向上を図り、自分の夢に向かってチャレンジしています。     |                |
| 青年農業士                             | 令和4年12月末 180名うち女性6名 | 農業協同組合  | 令和4年4月 総合農協数10 |
| ● 農村青少年クラブ活動に対する指導や地域活動に参画しています。  |                     | ● 食と農を支える地域社会に根ざした中心的担い手としてリーダーシップを発揮しています。   |                |

## 林業の担い手

## 林業就業者

林業の担い手は、素材生産や造林保育を行う林業事業体に雇用される林業就業者と林家の自家労働者から構成されています。令和2年の国勢調査による林業就業者は1,640人で長期的に減少傾向にあります。

年齢構成割合では、60歳以上の就業者の割合が上昇し、高齢化率が高い状況にあります。

## 森林組合

地域の林業や森林経営の中心的な担い手としてリーダーシップを発揮しています。

森林組合数 12（令和4年4月）

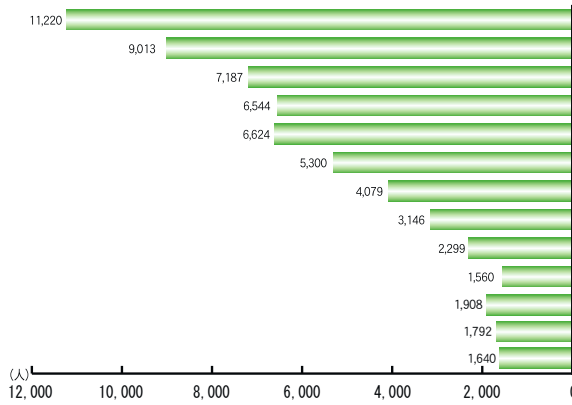
## 林業の担い手育成

令和3年4月に、就業希望者を対象に、林業に必要な知識や技術の習得を支援し、地域林業の中核を担う現場技術者を確保・育成する1年間の研修として「青い森林業アカデミー」を開講したほか、これまで育成してきた林業作業士等を対象として、高性能林業機械を用いた安全で効率的な作業システムに関する研修を実施し、増加する素材生産作業に対応するための更なる高度な技術と知識を有する林業技術者を育成しています。



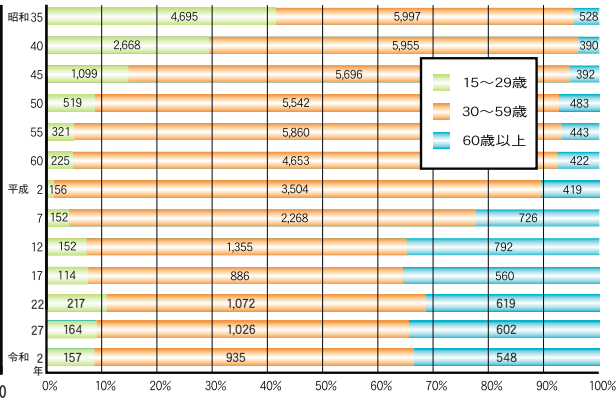
青い森林業アカデミー研修風景

■林業就業者の推移



出典：国勢調査

■林業就業者の高齢化指数(60歳以上)の推移



出典：国勢調査

## 水産業の担い手

### 海面漁業就業者数

漁業就業者数は8,395人で、全国順位は3位、全国に占める割合は5.5%となっています。このうち自営漁業就業者数は5,470人、漁業雇われ就業者数は2,925人です。

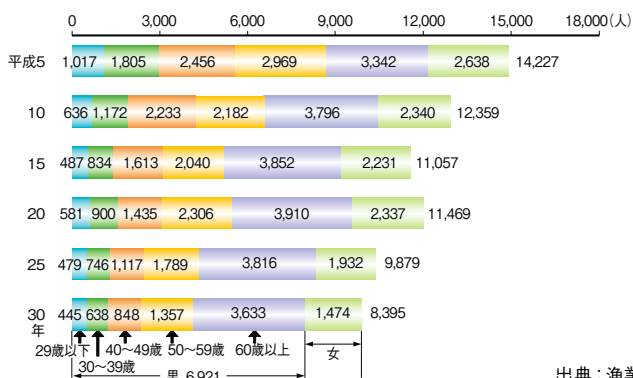
漁業就業者数を男女別にみると、男性は6,921人、女性は1,474人となっています。男性で60歳以上は3,633人となり、52.5%を占めています。

### 漁業協同組合

漁業の担い手育成や水産資源の維持・増大の管理主体としてリーダーシップを発揮しています。

沿海地区漁協数 44 (令和4年12月)

### ■男女別年齢別漁業就業者数の推移



出典：漁業センサス

### 漁業の担い手育成

#### 海の教室「水産教室」の開催

県内の子供たちに水産業のことを知ってもらい、将来の担い手となってもらうことを目指し、漁業者が主体となって漁業体験などを実施しています。

#### 「あおもり漁業体験」の開催

本県漁業の担い手確保に向け、漁業体験教室の開催や、インターンシップの実施によって、あおもり漁業の魅力を発信しています。

#### ひんようじゅく 賓陽塾での研修

漁師を目指す若者たちに、漁業に関する知識や技術を教える「賓陽塾」を開講しています。

#### 漁業士や女性部の活動支援

漁業に従事する若手漁業者が広い視野、先進的な考え方を身に付けるため水産業普及指導員が中心となって、漁業を支える漁業士や漁村生活の改善活動に活躍している女性部の活動を支援しています。



賓陽塾におけるロープワーク (平内町)



定置網漁業体験(深浦町)



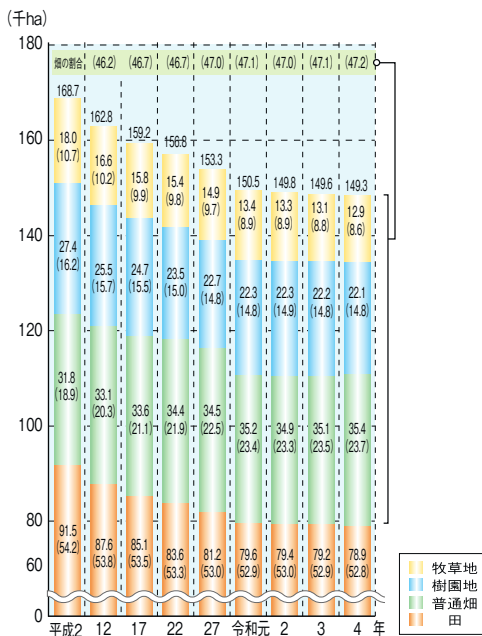
地元小学生対象の水産教室(むつ市)

# 5 農 業

## 農地の動き

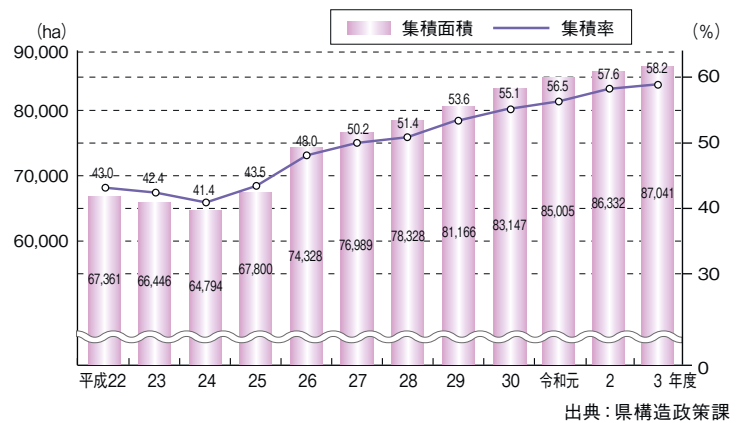
- 令和4年の耕地面積は149,300haで、うち田が52.8%、普通畑が23.7%。樹園地が14.8%、牧草地在8.6%となっています。
- 令和3年度の担い手への農地利用集積面積は87,041haで、耕地面積の58.2%となっています。
- 県内の水田面積は79,195haで、令和3年度までに30a程度以上の標準区画に整備された面積は53,627ha（67.7%）、このうち1ha以上の大区画に整備された面積は2,311ha（2.9%）となっています。

### ■耕地面積の推移



注) ( ) 内は構成割合 (%) 出典: 耕地及び作付面積統計

### ■担い手への農地利用集積の状況



### ■水田の整備状況

水田面積 79,195ha (100%)	整備済み		未整備 11,064ha (14.0%)
	20a区画未満 の小区画 14,504ha (18.3%)	30a程度以上の標準区画 うち1ha区画 以上 2,311ha (2.9%)	
	53,627ha (67.7%)		

出典: 県農村整備課



大区画整備された農地 (板柳町)

## 農業生産基盤・農村環境づくり

### 現 状

- 環境との調和に配慮した農業用排水路等の整備により、安全・安心な農作物を育む農業生産基盤づくりを実施しています。
- 暮らしに密着した集落内の道路や水路等の整備により、住みよい農村環境づくりを実施しています。

### 最近の特徴的な取組

- 生産コストの低減を図る農地の大区画化や需要に応じた作物への転換を可能とする汎用化の推進
- 水田の排水口に簡易な装置を取り付け、大雨の際、水田に一時的に水を貯め、緩やかに排水することにより洪水被害を抑制する「田んぼダム」の推進

### 今後の推進方向

#### <豊かで持続可能な農業・農村の実現>

##### ■担い手への農地の集積・集約化の推進

ほ場整備などの基盤整備の実施により、農地中間管理機構と連携しながら、担い手に対し面的なまとまりのある農地の利用集積を促進

##### ■力強い農業を支える生産基盤整備の推進

農作業の省力化と生産コストの低減を図る農地の大区画化を実施

高収益作物の生産拡大に向けた水田の畑地化・汎用化の実施や生産体制の整備を推進

##### ■担い手の所得向上を図る作物導入の促進

生産者と指導関係機関が一体となって、実需者と連携しながら、高収益作物を中心とした攻める農業を推進

##### ■農業水利施設の長寿命化・農村地域の防災減災対策

安全・安心な水資源を次世代に継承していくため、老朽化が進行している農業水利施設について、機能保全計画に基づき計画的かつ効率的な補修・更新を実施

頻発化・激甚化する豪雨、地震等に対応するため、農業水利施設の耐震対策や洪水被害防止対策などのハード対策に加え、既存ダムでの洪水調節機能の強化など「流域治水」の取組を推進

##### ■農村の地域資源の適切な保安全管理の推進

地域が共同で行う、多面的機能を支える活動や、地域資源（農地、水路、農道等）の質的向上を図る活動を支援

農業生産条件が不利な状況にある中山間地域等において、農業生産活動や多面的機能の維持につながる活動を支援

##### ■暮らしやすい活力ある農村づくりの推進

生活基盤の機能を併せ持つ農道等の機能維持や農業集落排水施設の老朽化対策などを効率的に推進

生態系の保全・再生に配慮した水路整備等による多面的機能の増進



大区画ほ場での田植え（南部町）



更新整備された水路（弘前市）



耐震化されたため池（横浜町）



走行性が向上した農道（五戸町）



# 農産物の生産と流通

## ① 米

### 現 状

- 特A評価をデビューから8年連続で取得した「青天の霹靂」がけん引役となっています。
- 業務用米として評価が高まっている「まっしぐら」が作付面積の約8割を占めています。

### 最近の特徴的な取組

- 新たな良食味品種「はれわたり」の県内デビュー
- ブランド米生産支援システム「青天ナビ」を活用した水田1枚ごとの技術指導の展開
- スマート農業技術を活用した大規模稲作省力作業体系の実証
- 酒造好適米「吟烏帽子」等の産地化の推進

## 今後の推進方向

### <農業・農村の根幹である「水田農業の再構築」>

- 県産米をけん引する「青天の霹靂」のブランド力の強化
- 市場ニーズに対応した多様な米づくりの推進
- 安全・安心で消費者に信頼される産地の育成
- 労働力不足に対応した生産技術の導入促進
- 大豆、新規需要米、高収益野菜等の導入による需要に応じた米生産の推進

### ■ 作付面積と収穫量

区 作	作付面積 (ha)	10a当たり収量 (kg)	収穫量 (t)	作況指数
平成2年	67,300	607	408,500	105
7	70,000	578	404,600	100
12	56,600	599	339,000	104
17	53,800	600	322,800	103
22	49,400	578	285,500	100
27	43,500	616	268,000	105
令和元	45,000	627	282,200	106
2	45,200	628	283,900	105
3	41,700	616	256,900	102
4	39,600	594	235,200	99

出典：農産物統計

### ■ 作付品種の検査数量及び等級割合（令和4年産）

区 作	検査数量 (t)	1等米比率 (%)
つがるロマン	15,220	89.8
まっしぐら	124,281	91.8
青天の霹靂	9,245	95.5
はれわたり	340	96.2
その他	1,723	—
計	150,809	91.7

注1) 検査数量及び1等米比率（水稲うるち米）は、令和4年10月末現在  
出典：東北農政局



「青天ナビ」を活用した現地指導



自動直進田植機と水管理装置の実演会



「はれわたり」指導者研修会



## ② 畑作物

### 現 状

- 県産大豆は、近年、豆腐や味噌用として実需者からの引き合いが強くなっています。
- 県産そばは、地産・地消の取組がみられます。
- 葉たばこの収穫面積・販売額は全国で4位となっています。

### 最近の特徴的な取組

- 大豆の単収・品質向上に向け、新たな湿害対策や雑草防除技術への取組が増加
- 地域の活性化につながる特色のあるそば品種の導入

### 今後の推進方向

#### <大豆・小麦作等の経営安定>

- 大豆・小麦・工芸作物等の低コスト、高品質安定生産の推進

#### ■ 主な畑作物の作付面積

(単位：ha)

区 作	大豆	小麦	葉たばこ	そば	小豆	なたね
平成2年	3,190	5,500	1,484	2,600	2,120	276
7	1,910	1,110	1,640	1,240	1,290	294
12	4,020	1,670	1,642	2,670	1,130	245
17	3,770	2,410	1,497	2,830	738	244
22	4,320	2,230	1,356	1,810	457	229
27	4,500	1,170	992	1,540	203	249
令和元	4,760	747	687	1,680	—	193
2	4,840	716	635	1,670	—	202
3	5,070	701	596	1,700	—	171
3年収穫量(t)	8,210	1,720	1,448	969	—	318

出典：H17まで：園芸作物統計  
H22以降：作物統計（葉たばこ除く）、葉たばこは県農産園芸課



大豆 (中泊町)

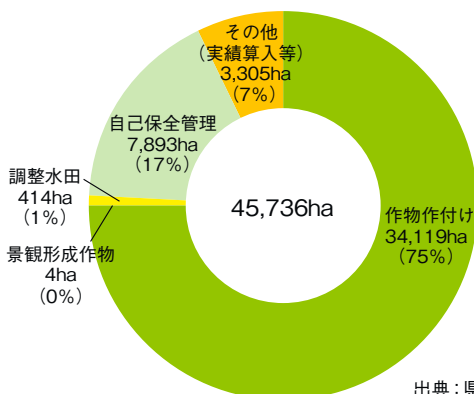


葉たばこ (八戸市)



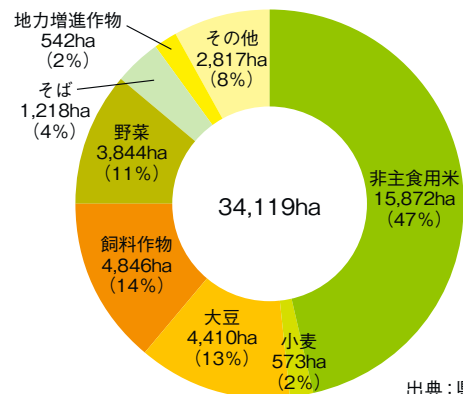
夏そば (十和田市)

#### ■ 水田活用状況 (令和3年)



出典：県農産園芸課

#### ■ 転作田での作物作付けの内訳 (令和3年)



出典：県農産園芸課

### ③ 野菜

#### 現 状

- にんにくは全国出荷量の69%、ながいもは38%、ごぼうは41%を占め、全国有数の産地となっています。
- 野菜の産出額のうち、ながいも、にんにく、ごぼうの3品目で5割を占めています。
- 野菜の指定産地は38産地（令和5年1月）となっています。

#### 最近の特徴的な取組

- ながいも・にんにくの優良種苗供給体制の強化
- 「あおもりながいも産地力強化戦略」に基づく、「ながいもの達人」の技術の伝承等による若手生産者の育成
- 加工・業務用野菜産地の育成・拡大の推進

### 今後の推進方向

#### <野菜等の生産力強化の推進>

- 野菜の消費動向や販売環境の変化を見据えた生産力の強化
- ながいも・にんにくの産地力強化

#### ■ 野菜の作付面積

(単位: ha)

区 作	野菜作付面積	だいこん	ながいも	にんじん	ね ぎ
平成2年	22,170	2,930	3,040	2,100	400
7	21,250	3,330	2,700	2,060	507
12	20,850	3,440	2,770	1,670	584
17	17,100	3,170	2,770	1,140	534
22	16,080	3,180	2,290	1,270	588
27	15,112	3,060	2,250	1,240	549
令和元	15,726	2,970	2,250	1,190	498
2	15,098	2,830	2,230	1,200	487
3	14,943	2,770	2,230	1,260	474

区 作	ばれいしょ	にんにく	ごぼう	メロン	トマト
平成2年	2,170	2,000	1,020	754	352
7	1,850	1,570	1,200	1,110	385
12	1,800	1,530	1,480	1,090	407
17	1,340	1,310	1,760	818	407
22	1,080	1,390	2,250	677	393
27	803	1,350	2,320	543	386
令和元	658	1,440	2,360	526	365
2	672	1,460	2,320	490	374
3	677	1,430	2,370	449	377

出典: 野菜生産出荷統計 ※トマトはミニトマト、加工用を含む



にんにく植付作業（七戸町）



ながいもの収穫作業（十和田市）

#### 出荷量が全国で上位の品目（令和3年）

( )は全国シェア



第1位 にんにく  
(69%)



第1位 ごぼう  
(41%)



第2位 ながいも  
(38%)



「ながいもの達人」との意見交換

## ④ 花き

## 現 状

- 夏季冷涼な気候を生かして生産される本県花きは「色鮮やかで日持ちが良い」と市場評価が高く、キク、トルコギキョウ、アルストロメリアを主体に生産されています。

## 最近の特徴的な取組

- 本県に優位性のある夏秋期生産の強化
- 技術交流等による担い手の育成
- 県産花きの魅力を発信するイベントや販売キャンペーン等の実施

## 今後の推進方向

## &lt;花きの夏秋期生産の強化と消費拡大&gt;

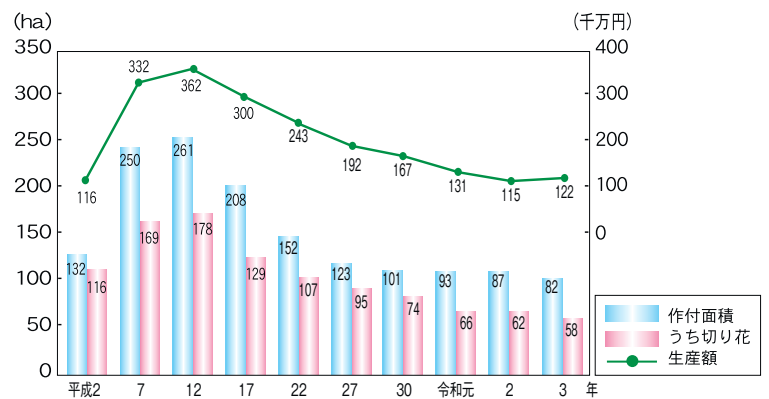
- 日持ち性向上に向けた生産から出荷にわたる管理技術の指標作成と「夏秋期生産強化チーム」による技術指導
- 若手生産者を対象とした技術研さんや生産意欲向上に向けた研修会の開催、情報誌の発行による担い手育成
- PRイベントによる認知度向上

## ■県推進品目の作付面積(令和3年)

品 目		面 積 (a)
重要品目	キク	1,559
	トルコギキョウ	817
地域振興品目	ケイオウザクラ	730
	ヒマワリ	316
	アルストロメリア	192
	カンパニュラ	97
	デルフィニウム	55

出典：県農産園芸課

## ■花きの作付面積と生産額



出典：県農産園芸課

## ■重要品目



キク



トルコギキョウ



あおもりの花・特得ウィークのフラワーアレンジメント

## ■地域振興品目



ケイオウザクラ



ヒマワリ



アルストロメリア



カンパニュラ



デルフィニウム

## ⑤ りんご

## 現 状

- 全国の生産量の約6割を占めています。
- 主力品種は、ふじ、つがる、王林、ジョナゴールドです。
- 約30万トンが県外に出荷されており、そのうち、約3万トンが輸出されています。

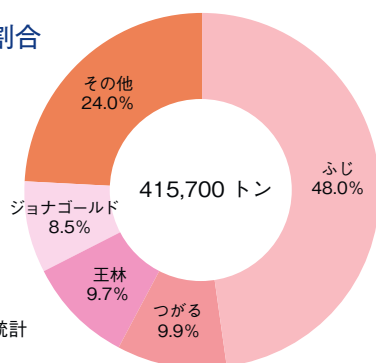
## 最近の特徴的な取組

- 商品性の高いりんごの生産
- 高密植わい化栽培の推進
- りんご剪定枝の収集機等農業機械の導入
- 東アジア・東南アジアを中心とした輸出の振興

## 今後の推進方向

## &lt;売れるりんごづくりの推進&gt;

- 気候変動に対応した適正管理や適正着果など生産力強化による高品質りんご生産の推進
- 産地力の強化と災害に強い園地づくりの推進
- 安全・安心で環境に配慮したりんご生産の推進

■ 品種構成の割合  
(令和3年)

## ■ 栽培面積

区 分	栽培面積 (ha)	わい化栽培 (%)	有袋栽培 (%)
平成2年	25,300	10.4	71.0
7	24,300	11.4	50.0
12	23,400	16.0	42.1
17	22,600	18.3	41.2
22	21,700	21.4	31.8
27	20,800	23.1	25.8
30	20,600	24.1	23.4
令和元	20,500	24.1	20.5
2	20,400	24.2	21.3
3	20,400	24.4	19.9

出典：農林水産省統計、県りんご果樹課

## ■ 収穫量

(単位：t)

区 分	収穫量	出荷量	輸出量
平成2年	501,000	468,900	1,074
7	481,300	450,800	2,421
12	407,200	366,600	2,160
17	423,400	380,200	18,899
22	452,500	407,700	17,940
27	470,000	427,300	36,304
30	445,500	402,900	33,194
令和元	409,800	371,800	31,772
2	463,000	420,100	34,432
3	415,700	377,000	30,545

注) 平成17年以降の輸出量は全国の値(このうち本県産は9割と推計)  
出典：農林水産省統計、財務省貿易統計

## 青森りんごの仲間たち



りんご剪定枝の収集機



台北駐日経済文化代表処表敬訪問

## ⑥ 特産果樹

### 現 状

- 西洋なしの生産量は全国第3位となっています。(令和3年)
- ぶどうは、特産果樹では最も生産量が多くなっています。
- ももは近年津軽地域での産地化が図られています。
- ブルーベリー、カシスなどの地域特産的な果樹が生産され、各種加工品が開発されています。

### 最近の特徴的な取組

- さくらんぼ新品種「ジュノハート」の高品質安定生産に向けた取組の推進
- 消費者のし好にあった「シャインマスカット」等の良食味ぶどう品種の普及
- 半追熟果の出荷による西洋なしの有利販売
- もものリレー出荷に向けた新品種の導入

※特産果樹とは…青森県では、地域特産的な色彩の強い、りんご以外の果樹の総称として使用しています。

## 今後の推進方向

### <特産果樹の振興>

- 優良品種の生産拡大と品質向上による特色ある産地づくりとブランド化の推進
- 高品質安定生産の推進
- 観光農園や直接販売、加工品づくりの推進

### ■ 特産果樹と栽培面積

(単位: ha)

区 作	ぶどう	さくらんぼ	西洋なし	もも
平成2年	615	276	164	96
7	515	389	166	93
12	482	389	165	99
17	466	398	170	114
22	455	322	148	104
27	462	305	151	126
30	446	—	143	—
令和元	429	—	140	138
2	426	303	140	140
3	422	—	141	144

出典: 園芸作物統計、耕地及び作付面積統計

### ■ 特産果樹の収穫量

(単位: t)

区 作	ぶどう	さくらんぼ	西洋なし
平成2年	7,900	1,760	2,140
7	6,350	1,170	1,970
12	6,090	690	1,920
17	5,210	1,460	2,020
22	4,910	807	1,560
27	4,420	—	2,090
30	4,490	—	1,850
令和元	4,630	—	1,940
2	4,810	682	1,720
3	4,510	—	1,780

出典: 園芸作物統計、果樹生産出荷統計

### ■ 特産果樹の主要品目

ぶ ど う	スチューベン、キャンベル・アーリー、シャインマスカット
さくらんぼ	佐藤錦、紅秀峰、ジュノハート
西 洋 な し	ゼネラル・レクラーク、ラ・フランス
も も	川中島白桃、あかつぎ、まどか



ジュノハート適期収穫研修会



ジュノハート目揃い会



シャインマスカット



ジュノハート



川中島白桃



ゼネラル・レクラーク

## ⑦ 畜産物

### 現 状

- 畜産の産出額は947億円となっており、本県農業産出額の上位10品目のうち、畜産物が5品目を占めています。
- 本県の家畜飼養頭羽数の全国順位は、大家畜（肉用牛・乳用牛）が中位、中小家畜（豚・鶏）は上位。
- 1戸当たり飼養頭羽数は、採卵鶏が全国第1位、豚・ブロイラーも上位となっており、大規模化が進んでいます。

### 最近の特徴的な取組

- 全国和牛能力共進会に向けた取組強化
- 幅広い年代を対象とした畜産業の魅力発信
- 農場HACCP、JGAP家畜・畜産物の認証取得の促進
- 公共牧場や水田を活用した地域飼料資源の利用推進
- 県獣医師職員確保対策の推進

### 今後の推進方向

#### <経営基盤の強化と高品質な畜産物の生産>

- 畜産業の持続的成長に向けた経営基盤の継承と次世代の人財確保
- 畜産物の高い生産性とスマート農業技術の活用による省力化の推進
- 多様化するニーズに対応した高い市場価値を有する畜産物の生産と安定供給
- 地域資源の有効活用による自給飼料の増産と利用の拡大
- 資源循環型畜産の確立に向けた家畜排せつ物の適正処理と利用推進
- 飼養衛生管理基準の順守による家畜伝染病の発生防止対策の強化と生産性の向上



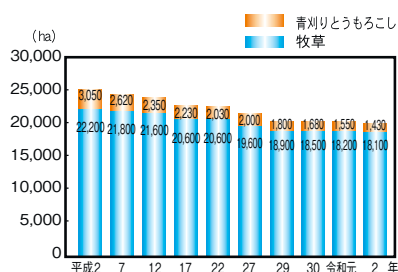
県内農業高校生を対象とした畜産施設見学研修

#### ■主要家畜の飼養頭羽数

区 作	乳用牛	肉用牛		豚	鶏卵鶏 (成鶏めす)	ブロイラー
		肉用種	乳用種			
平成2年	24,300頭	56,200頭	—	445,100頭	4,066千羽	3,777千羽
7	23,400	61,200	—	378,700	4,402	4,295
12	19,000	55,800	26,400頭	29,400頭	372,000	4,479
17	16,700	56,500	25,300	31,200	—	—
22	13,900	62,400	28,700	33,600	—	—
27	11,600	55,000	24,600	30,500	—	—
令和元	11,700	53,500	28,100	25,400	351,800	5,186
2	11,800	53,700	28,900	24,700	—	—
3	12,000	53,400	29,900	23,500	352,700	5,332
4	12,200	54,600	30,900	23,800	358,600	4,650

※平成17年、22年、27年及び令和2年の豚、採卵鶏及びブロイラーについては、農業センサス実施年のため、調査を中止している。※合計が一致しない場合がある。  
出典：農林水産統計年報、県畜産課、畜産統計

#### ■飼料作物の作付面積



出典：作物統計

#### ■特産地鶏「青森シャモロック」生産羽数

区 分	生産羽数(羽)
平成14年度	13,000
17	30,000
22	70,900
27	66,101
30	60,786
令和元	52,520
2	37,610
3	35,315

出典：県畜産課

#### ■公共牧場における放牧状況

区 分	公共牧場	草地面積	放牧頭数
平成2年	133か所	10,016ha	19,795頭
7	118	8,243	14,397
12	108	7,286	10,332
17	100	7,181	8,120
22	99	6,882	6,534
27	94	6,732	5,657
令和元	90	6,290	3,707
2	90	6,192	3,479
3	89	6,188	3,265

出典：県畜産課



県基幹種雄牛「幸紀花」



県基幹種雄牛「寿優福」



公共牧場における黒毛和種の放牧  
(田代平)



コントラクターによる飼料生産



青森シャモロック  
(本県の特産地鶏)

# 6 林 業

## 木材生産

### 現 状

- 木材需要、生産量とも横ばい傾向にあり、価格も外材、国産材とも横ばい傾向を示しています。
- 住宅着工数、建築用材の出荷量ともに横ばい傾向を示しています。

### 最近の特徴的な取組

- 大型木材加工施設（LVL 工場）の整備
- 県産材を多用した公共建築物の建設
- 木質バイオマス利用施設の整備

### 今後の推進方向

#### <県産材の安定供給と利用の確保>

- 木材製品の生産振興
- 木づかい運動や木育の推進と住宅への利用促進
- 公共建築物への利用促進
- 木質バイオマスエネルギー利用促進

#### ■素材生産量

(単位：千m<sup>3</sup>)

年 次	計	針葉樹					広葉樹
		小計	アカマツ クロマツ	スギ	カラマツ	その他	
平成12年	612	486	90	277	32	87	126
17	581	484	76	341	28	39	97
22	601	533	79	402	33	19	68
27	935	868	113	708	37	10	67
29	987	929	112	763	34	20	58
30	1,082	1,021	115	849	36	21	61
令和元	1,120	1,052	110	868	49	24	68
2	1,091	1,028	120	849	45	14	63

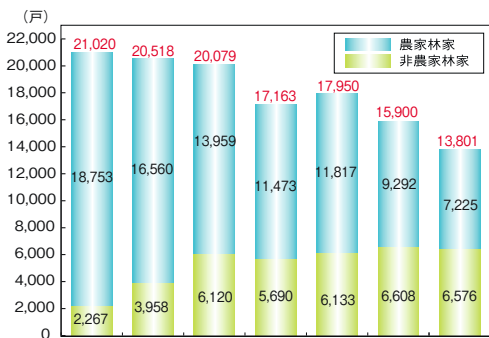
出典：農林水産省木材統計、県林政課

#### ■製材工場数

区 作	平成2年	7	12	17	22	27	29	30	令和元年	2
製材工場数	348	307	243	175	121	101	88	80	78	70

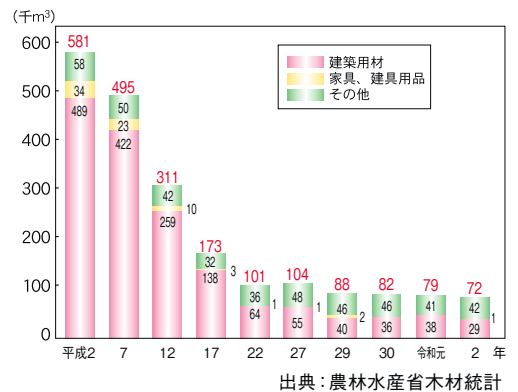
出典：農林水産省木材統計

#### ■林家数（保有面積1.0ha以上）



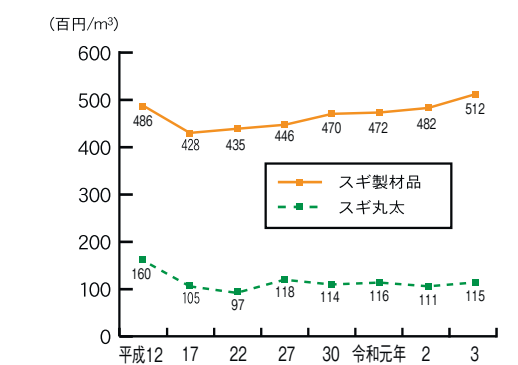
出典：農林業センサス

#### ■製材品の用途別出荷量



出典：農林水産省木材統計

#### ■木材価格（丸太、製材品）の推移



出典：県林政課



県産材を利用した公共施設（千歳平小学校）



県産材利用住宅（青森市）



# 森づくり

## 現 状

- 日本三大美林のヒバ林、白神山地のブナ林、県南のアカマツ、スギ人工林など多様な森林が県土面積の66%を占めています。
- 天然ヒバの資源量は全国の約8割を占めています。
- スギ人工林は全国第4位の約20万haとなっています。

## 最近の特徴的な取組

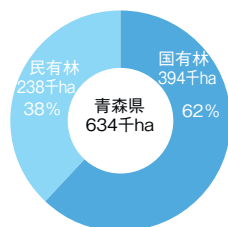
- 山と川と海の関わりや森林の持つ役割と大切さの普及・啓発
- 再生林の推進と再生林に取り組む事業者の育成
- 松くい虫やナラ枯れ被害対策の推進

## 今後の推進方向

### <森林の持つ多面的機能の発揮>

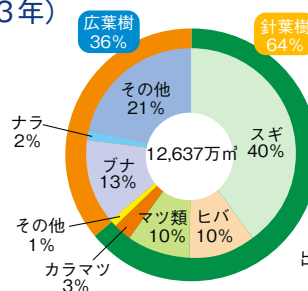
- 再生林や間伐等森林整備の推進
- 優良種苗の安定供給
- 森林の保全
- 社会全体での森づくり

### ■森林面積比率



出典：青森県森林資源統計書  
(令和4年度)

### ■森林樹種別蓄積比率 (令和3年)



出典：青森県森林資源統計書



森林環境教育

# 特用林産物 (きのこ・山菜)

## 現 状

- しいたけ、なめこ、まいたけなどのきのこや、うど、たららの芽、みず(ウワバミソウ)などの山菜が生産されています。
- 特用林産物の生産額の約5割がきのこ類となっています。
- きのこ類は、生産量、生産額とも減少傾向となっています。

## 最近の特徴的な取組

- 県産きのこのPRの強化
- 野生きのこや新品種きのこの研究
- 青森きくらげの本格生産・販売

## 今後の推進方向

### <特用林産物の生産振興>

- 特用林産物の生産拡大
- 生産施設の整備支援と技術及び知識の普及



青森きくらげ

### ■きのこ類の生産量

(単位：t)

区分	しいたけ	なめこ	えのきたけ	まいたけ	ひらたけ	あらびきくらげ	計
平成2年	1,446	1,066	328	194	529	0	3,563
7	1,104	1,046	383	218	129	0	2,880
12	775	802	285	258	53	0	2,173
17	403	778	226	104	12	0	1,523
27	320	242	140	40	4	0	744
30	256	164	106	35	0	6	567
令和元	237	163	137	12	0	6	555
2	210	184	77	11	0	9	491
3	175	176	0	10	0	19	380

出典：青森県特用林産物統計

### ■その他特用林産物の生産量

青森きくらげ

区作	くり (t)	くるみ (t)	わさび (t)	木炭 (t)	木酢液 (ℓ)
平成2年	130	93	1	455	0
7	129	72	18	442	0
12	86	5	55	334	5,460
17	12	6	40	239	9,861
27	23	9	14	215	12,604
30	17	6	8	82	18,393
令和元	14	4	6	94	23,891
2	9	2	4	102	13,486
3	22	2	3	21	3,841

出典：青森県特用林産物統計

# 7 水産業

## 漁業生産

### 現 状

- 本海面漁業・養殖業の生産量は、海面漁業が9万トン、海面養殖業が8万トンで、産出額は海面漁業が348億円、海面養殖業が106億円となっています。
- 魚種別の生産量は養殖等によるホタテガイが最も多く、次いでイワシ類となっています。
- 内水面漁業・養殖業の生産量は約3千トンとなっており、魚種別ではシジミの生産量が最も多くなっています。

### 最近の特徴的な取組

- 新漁業法に基づき、資源管理は原則、TAC管理で行う
- 「大学生」や「社会人」等、20～40代をターゲットとして、漁業者との連携により、魚食普及を推進
- 内水面・海面における養殖業の推進（サーモンなど）

## 今後の推進方向

### <水産物の安定生産と漁場づくり>

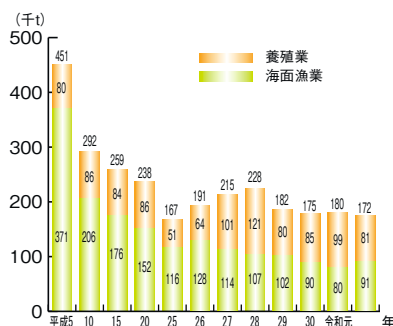
- 重要な水産物の安定的な持続生産
- 漁業者を中心とした漁場環境の保全活動

### ■海面漁業・養殖業の生産量・産出額（令和2年）

区 作	生産量 (t)	産出額 (億円)
海面漁業・養殖業	172,491	454
海面漁業	91,117	348
養殖業	81,374	106
内水面漁業・養殖業	3,300	

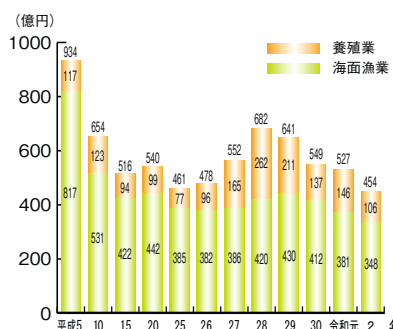
出典：漁業・養殖業生産統計

### ■海面漁業・養殖業生産量の推移



出典：漁業・養殖業生産統計

### ■海面漁業・養殖業産出額の推移



出典：漁業・養殖業生産統計

### イカ類

令和2年のイカ類の漁獲量は18,557トンで、県内全域で釣りや定置網などで漁獲されています。

### ヒラメ

令和2年のヒラメの漁獲量は834トンで、県内全域で定置網、一本釣り、刺網、底びき網などで漁獲されています。

青森県の「県の魚」に指定され、資源管理や種苗放流が行なわれています。

### ホタテガイ

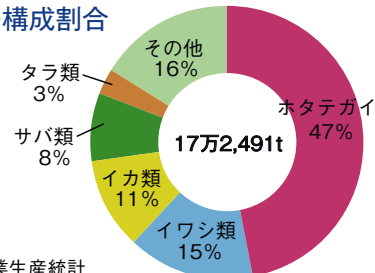
令和2年のホタテガイの生産量は80,735トンで、陸奥湾を中心に養殖や地まき放流で生産されています。

### シジミ

令和2年のシジミの漁獲量は2,326トンで、主に小川原湖と十三湖で漁獲されています。



### ■魚種別生産量の構成割合（令和2年）



出典：漁業・養殖業生産統計

## 資源管理

### 現 状

- ヒラメをはじめウスメバル、イカナゴ類、マダラなどについて漁獲サイズや重量、操業期間、操業区域を制限することで魚介類の保護を行い、資源を管理しています。

### 最近の特徴的な取組

- 資源管理・収入安定対策が平成23年4月1日から開始
- 県は資源管理方針（指針）を、漁業者は各種漁業の資源管理協定（計画）を策定

### 今後の推進方向

#### <水産資源の適正管理と持続的利用>

- 県資源管理方針（指針）に基づき漁業者が策定した資源管理協定（計画）による自主的な資源管理の実施
- 栽培漁業、水産基盤整備事業との連携による取組支援
- 魚種に応じたきめ細かな管理手法の試験研究強化
- 遊漁者などへの資源管理意識の啓発

#### ■ ヒラメの資源管理



#### ■ 青森県における資源管理型漁業の主な取組状況（小型魚等再放流関係）

魚 種	管理内容	漁業種類	対象地区・漁協
ヒラメ	再放流（35 cm未満）	沖合底びき網漁業 小型底びき網漁業 定置漁業（底建網漁業） 刺網漁業 一本釣り漁業	全地区
マコガレイ	再放流（20 cm未満）	定置漁業（底建網漁業） 一本釣り漁業	
マガレイ	小型魚再放流（15 cm未満）	定置漁業（底建網漁業）	日本海全漁協
ムシガレイ	小型魚再放流（20 cm未満）	全漁法	日本海全漁協
マダイ	当才魚（0才魚）再放流	定置漁業（底建網漁業）	日本海全漁協
マダラ	放卵・放精後の親魚及び小型魚の再放流	底建網漁業	陸奥湾地区
ウスメバル	小型魚再放流 （日本海110 g未満、津軽海峡90 g未満）	一本釣り漁業、刺網漁業	日本海、津軽海峡地区

# つくり育てる漁業

## 現 状

- サケは県内10か所でふ化飼育を行っており、令和3年度は約2,287万尾を放流しました。
- ヒラメは（公社）青森県栽培漁業振興協会が稚魚を生産しており、令和3年は101万尾を放流しました。
- 陸奥湾のホタテガイをはじめ、コンブ、ホヤ、ワカメなどの養殖も行われています。
- 水産生物の生育環境を創出するため、藻場礁や魚礁などを海底に設置しています。

## 最近の特徴的な取組

- 持続可能なホタテガイ養殖の推進
- サケ、ヒラメの放流効果向上のための技術開発の推進
- アイナメやマツカワ種苗の量産に向けた技術開発の推進
- ホタテガイ貝殻を敷設し、ナマコ増殖場を整備
- ウスメバル等が成長過程で移動する習性に合わせ、藻場等の増殖場や魚礁漁場を、沿岸から沖合までの一体的かつ広域的に整備

## 今後の推進方向

### <積極的な水産資源の増大>

- 本県の海域特性に適した新たな栽培魚種の研究・開発
- 健全な種苗の生産と適期放流の推進
- 種苗生産、中間育成施設の整備
- 整備した増殖場等の効果調査と機能の維持管理

### ■養殖生産（令和2年）（単位：t）

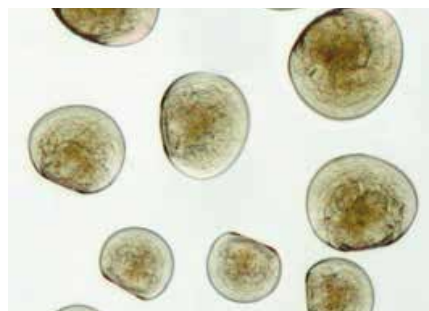
種 類	収穫量
ホ タ テ ガ イ	80,164
ニ ジ マ ス	872
ホ ヤ 類	284
ワ カ メ 類	48
そ の 他	637

出典：漁業・養殖業生産統計  
（青森県海面漁業に関する調査結果）

### ■栽培魚種（令和2年）（単位：t）

種 類	漁獲量
サ ケ 類	1,691
ヒ ラ メ	834
ウ ニ 類	491
ア ワ ビ 類	22

出典：漁業・養殖業生産統計



ホタテガイの幼生



サケのふ化仔魚

※参考  
成長の度合いによる魚の呼び名  
卵→仔(し)魚→稚魚→幼魚→成魚



藻場礁に集まるウスメバルの稚魚（八戸南浜漁場）



ヒラメ稚魚放流

# 漁港・漁場づくり

## 現 状

- 県内には、海岸線795kmに85の漁港が点在しており、多くの施設が築造後数十年を経て老朽化しているほか、近年激甚化する自然災害などに対応した漁港づくりが求められています。
- 近年、回遊性のスルメイカなどの不漁が続いていることから、沿岸性魚種の資源の増大に向けた漁場づくりが求められています。

## 最近の特徴的な取組

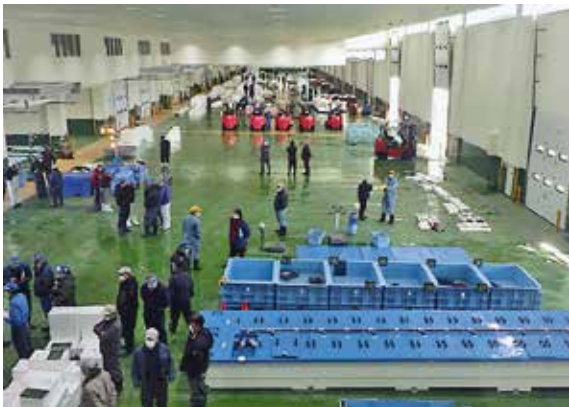
- 水産物の高度な衛生管理に対応した荷さばき所等の整備
- 岸壁の耐震化や近年の高波に対応した防波堤の嵩上げ改良など、漁港施設の機能強化対策
- 水産生物が成長過程で移動する習性に合わせ、藻場等の増殖場や魚礁漁場を沿岸から沖合まで一体的かつ広域的に整備

## 今後の推進方向

### <水産物の安定供給に向けた漁港漁場整備の推進>

- 漁港の防災・減災対策や老朽化した漁港施設の長寿命化対策の推進
- 漁業活動の労力軽減や効率化につながる漁港の整備を推進
- 海面養殖を支援する漁港の整備を推進
- 沿岸の水産資源の増大に向け、藻場等の増殖場や魚礁漁場を沿岸から沖合までの一体的かつ広域的な整備を推進
- 水産物の衛生管理対策の推進

### ■ 漁港漁場整備事例



高度な衛生管理に対応した荷さばき所の整備  
(八戸漁港)



グラウンドアンカー工法による陸揚げ岸壁の耐震化  
(三沢漁港)



越波防止のための既存防波堤の嵩上げ改良  
(小泊漁港)



沖合の魚礁漁場に集まるウスメバル  
(今別東部漁場)

# 8 安全・安心なおおもり産品づくり

## 「日本一健康な土づくり運動」の推進

### 現 状

- 消費者、市場・流通関係者から、安全・安心でおいしい県産農産物の供給力の拡大を求める声が強まっています。
- 安全・安心な県産農産物を安定的に生産・供給できる体制を整備するため、市町村、農業団体と一体となり、農業生産の基本である「健康な土づくり」に全ての農業者が取り組むことを目指す「日本一健康な土づくり運動」を強力に展開しています。

### 最近の特徴的な取組

- 「あおもり土づくりの匠」による実践指導
- 堆肥や稲わら等の有機質資源の利用促進
- 環境保全型農業直接支払制度を活用した環境にやさしい農業の取組拡大
- 消費者に対する土づくりや環境にやさしい農業の情報発信
- 新規就農者等を対象とした「エコ農業チャレンジ塾」の開催

### 今後の推進方向

#### <農業生産の基本となる健康な土づくりの推進とレベルアップ>

「あおもり土づくりの匠」による実践指導の実施、堆肥や稲わらなどの有機質資源の利用促進と総合土壌診断に基づく土づくりの実践、地域資源を活用した地域の土づくり体制の構築を目指します。

#### ■「あおもり土づくりの匠」の認定と実践指導

令和4年度4名認定（累計81名）

#### ■有機質資源の利用促進と総合土壌診断に基づく土づくりの実践

- ・堆肥展示会等による啓発、指導者対象の土づくり研修会の開催
- ・稲わら収集技術体系マニュアルを活用した稲わら収集事業者の育成・確保



「あおもり土づくりの匠」による現地指導



稲作農家等と畜産農家による意見交換会

#### <健康な土づくりを基本とした環境にやさしい農業の拡大>

国の環境保全型農業直接支払制度の活用や環境保全に効果の高い事例及びIPM（総合的病害虫・雑草管理）実践指標などを活用することにより、環境にやさしい農業の取組拡大を図ります。

#### ■環境保全型農業直接支払交付金取組面積の拡大

環境保全型農業直接支払交付金取組面積（単位：ha）

平成28年	29	30	令和元	2	3
814	918	788	846	815	842



リビングマルチの利用  
（ながいものうね間に大麦をは種）

## ■環境にやさしい農業に関わる認証制度等の活用

### 有機農産物

作付前2年（多年生作物は3年）以上化学合成農薬と化学肥料を使用しないほ場において、基本的に農薬と化学肥料を使用しないで栽培された農産物



### 青森クリーンライス

J A全農あおもりが示す「青森クリーンライス栽培基準」に基づき栽培された米



### 青森県特別栽培農産物

化学合成農薬と化学肥料の使用をその地域の一般的な栽培方法と比べて半分以下に低減し栽培された農産物で、県が認証



環境にやさしい農業の主な取組面積 (単位: ha)

区分	平成18年	27	28	29	30	令和元	2	3
青森県特別栽培農産物の栽培面積	525	412	400	440	436	463	450	499
有機JAS認証面積	264	305	333	301	370	362	378	-

## ■IPM実践指標の導入促進

IPM実践指標の作成、技術指導者対象の研修会の開催

IPM実践指標の作成品目	IPM実践指標の作成品目
施設トマト（夏秋）、ながいも、水稲、りんご、なし、もも、大豆、ぶどう、施設いちご	

## <消費者等から信頼される農産物の供給と情報発信の強化>

GAP（農業生産工程管理）の取組拡大を図るほか、健康な土づくりなどについての消費者理解を深めるための情報発信を行います。

### ■GAPの普及拡大

- ・農業者を対象としたGAP研修会の開催や指導の実施
- ・農業高校のGAP認証の新規取得や維持・更新の審査費用等を支援

県内におけるGAP認証取得産地数の推移 (単位: 産地)

	平成26年	27	28	29	30	令和元年	2	3
GLOBALG.A.P.	2	6	9	14	24	23	22	19
ASIAGAP					1	1	1	2
JGAP	6	7	7	6	4	11	12	20
計	8	13	16	20	29	35	35	41



農業者を対象としたGAP研修会

### ■土づくりや環境にやさしい農業のPR

- ・農産物直売所や量販店などエコ農産物販売協力店での情報発信
- ・新規就農者等を対象としたエコ農業チャレンジ塾の開催



エコ農産物販売協力店でのPR



エコ農業チャレンジ塾（津軽会場）

# 9 農林水産物の販売戦略

## 流通販売

### 現 状

- これまで築いてきた販売先との信頼関係により、コロナ禍においても大手量販店との取引は安定して推移しています。
- コロナ禍の影響で、店頭でのPR活動が制限されたり、消費者の購買行動が変化してきています。

### 最近の特徴的な取組

- 大手量販店のフェアと連携したネット販売等によるEC展開の強化
- コロナ禍に対応した消費宣伝手法の実施やデジタル技術を活用した商談手法の導入促進
- りんご、ほたて、ながいもなど県産農林水産品の海外販路の拡大

### 今後の推進方向

#### <確固たる販路確立に向けた販売促進活動の展開>

- 大手量販店との連携強化や地域密着型スーパー等をターゲットとした新たな販路開拓
- 情報発信力の高い首都圏等の高級店等に対する販売促進
- 情報ツールの変化に対応した効果的な情報発信
- A! Premium による西日本への販路開拓
- 世界トップレベルの品質を武器にした輸出の拡大



大手量販店と連携した青森県産品のEC販売（ダイエー）



アバターを活用した県産品のPR（イオン南関東）



# 商品づくり

## 現 状

- 主食用米の需要減少で米の販売環境が厳しくなる中、各産地からブランド米が次々とデビューし、銘柄米の競争が激しくなっています。
- 生活スタイルの変化やコロナ禍の影響により、汎用性が高く保存期間が長い冷凍食品市場が急速に拡大しています。

## 最近の特徴的な取組

- 県産米「青天の霹靂」がコロナ禍でも高い評価
- 県産米新品種「はれわたり」が令和5年産に全国デビュー
- おうとう「ジュノハート」のブランド力が向上
- 産地と加工事業者の連携による高品質な冷凍食品の開発

## 今後の推進方向

### <本県ならではのブランド価値の高い産品や商品の創出>

- 「青天の霹靂」の更なるブランド力の強化と「はれわたり」の宣伝販売対策の推進
- 「ジュノハート」のブランド化促進と、これに続く新たな産品の発掘・開発
- 高品質な県産冷凍食品の開発と販路開拓



8年連続特A評価の「青天の霹靂」



店舗売場での「青天の霹靂」のPR  
(県内スーパー)



「はれわたり」キービジュアルデザインの発表



ジュノハート



青い森紅サーモン



青森きくらげ



冷凍野菜  
(かぼちゃ、ブロッコリー、アスパラガス)



青森わっぱ飯／冷凍



いがめんち／冷凍



自家製弘前カマンベールチーズの  
チーズケーキ／冷凍

## 地産地消

### 現 状

- 県内量販店やスーパーなどが独自に「県産品フェア」を開催するなど自主的な地産地消の取組が増えています。
- だしや野菜を活用して減塩する「だし活+だす活」が県民に浸透しつつあります。
- 産地直売施設では、コロナ禍の中でも、地元客の需要により農林水産物や加工品の販売額が増えています。

### 最近の特徴的な取組

- 民間主体による青森県産品愛用応援キャンペーンの定着
- 調味料メーカー等と連携した減塩総菜等の商品開発
- 若手生産者等との連携による産地直売施設の販売力強化

### 今後の推進方向

#### <県産品の愛用・利用促進に向けた県民運動の充実・強化>

- 県民の地産地消への意識醸成や小売店・飲食店における県産食材の利用拡大
- 量販店等と連携した県産品フェアの開催やタイアップ商品の開発
- 「だし活+だす活」の普及拡大による県民の健康づくりと地産地消の推進
- 産地直売施設の販売力強化に向けた取組の推進

#### ■ ふるさと産品消費県民運動協力店の推移 (単位: 店)

年 度	平成14	平成24	令和3
協力店	75	525	680

出典: 県総合販売戦略課

#### ■ 産地直売施設等における農林水産物・加工品の販売額 (単位: 万円、%)

	総販売額	うち農林水産物 及び加工品	割合
令和元	1,249,744	608,103	48.7
令和2	1,166,736	634,713	54.4
令和3	1,126,747	665,850	59.1

出典: 県総合販売戦略課



出前トークでの「だし活+だす活」PR



産地直売施設の販路拡大活動の展開



青森県産品愛用応援キャンペーン

# 10 農林水産業と商工業の連携強化

## 現 状

- 本県の農林水産物は生鮮出荷が多く、加工の付加価値分が県外へ流出しています。
- 農商工連携や6次産業化による商品開発やマーケティング活動が行われています。

## 最近の特徴的な取組

- 各地域県民局に常設している相談窓口を活用した事業者連携による新商品の開発
- 県外の食品事業者等を対象に県内事業者とのマッチングを支援

## 今後の推進方向

### <地域の6次産業化の推進と農商工連携強化>

- 農林漁業者、食品製造業者、流通販売業者、それぞれの強みを生かした新たな連携の創出
- 市町村及び関係機関と連携し、農林漁業者等による6次化の取組を支援
- 食品加工事業者等に対する商談機会の提供による販路開拓支援
- 食品製造事業者等の輸出向けHACCP等対応施設の整備を支援

### ○農商工連携食産業づくり相談窓口

農林漁業者や食品製造事業者等の情報を集約・活用しながら、食に関する相談、新商品の商談促進などに総合的に対応しています。

- ・ 設置：総合販売戦略課、各地域県民局地域農林水産部
- ・ 相談件数

単位：件

区 分	H29	H30	R元	R2	R3
件 数	507	480	470	402	381

### ○六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定

農林漁業者（1次産業従事者）が生産や市場出荷だけでなく、自ら加工（2次産業）や、流通や販売（3次産業）に取り組むなど、経営の多角化を進める取組に係る計画を国が認定し、農山漁村の雇用の確保や所得向上につなげます。

総合化事業計画の認定件数 72件（令和5年2月現在）

### ○農山漁村発イノベーション（6次産業化）サポートセンター

国の総合化事業計画の認定及び今後の認定を目指す農林漁業者が取り組む6次産業化に対して、専門家を派遣することで伴走支援を展開しています。

<派遣件数>

単位：件

	H29	H30	R1	R2	R3
アドバイザー	153	161	137	14	5
企画推進員	57	92	65	53	76
計	210	253	202	67	81

### ○食品産業の輸出向けHACCP等対応施設整備緊急対策事業

農林水産物及び加工食品を輸出する際に輸出先国等から求められる規制及び基準等に対応するための施設整備を支援します。

<事業実施件数>

単位：件

区 分	R2	R3	R4
実施事業主体	3	3	3



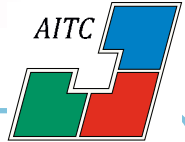
6次産業化推進セミナー

# 地方独立行政法人 青森県産業技術センターの取組

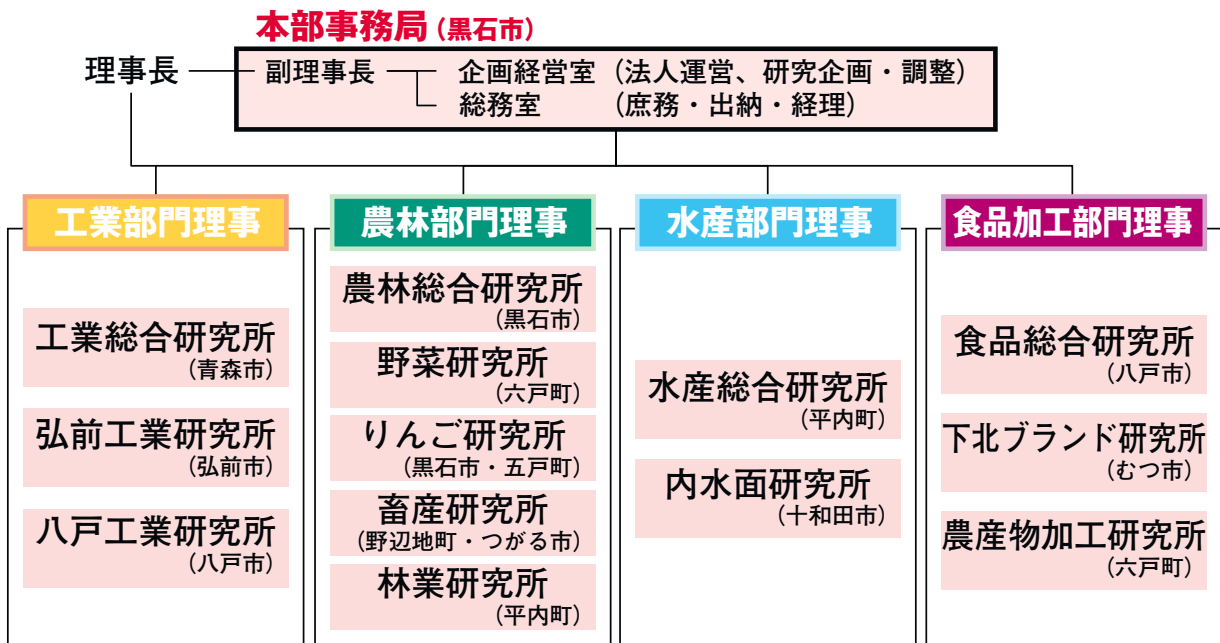
地方独立行政法人青森県産業技術センターは、工業・農林・水産・食品加工の4つの研究部門が一体となった試験研究機関です。

新たな技術や製品開発、地域の生産者や企業のニーズに応じた研究、分析・試験・調査、技術相談・指導のほか、各種研究会、講演会等で技術情報を提供しています。

## 組織体系



### 地方独立行政法人 青森県産業技術センター



工業部門では、県内企業が抱える技術的な課題の解決に向けた技術相談、機器貸出し、依頼試験等による支援に加え、ものづくりの各分野における研究開発などを行っています。



6種類のロボット操作を体験できる試験室

農林部門では、水稲、ながいも、りんご、きのこなどの新品種の育成、肉用牛の基幹種雄牛や特産地鶏など家畜の改良、農林産物の高品質・安定生産や森林の管理技術の研究などを行っています。



水稲新品種「はれわたり」

水産部門では、海や川・湖における漁場環境、資源管理、漁業管理技術、栽培漁業・養殖技術の調査・研究などを行っています。



陸上養殖したカレイの仲間「マツカワ」

食品加工部門では、県産農林水産物を生かした加工品の研究開発のほか、加工グループ、企業に対する技術普及や指導などを行っています。



非破壊計測によるブリの脂質測定

# 12 Webによる情報提供

## 青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」

令和4年度に新たに開設したウェブサイトで、県内で農業に携わる方やこれから農業を始める方に役立つ農業・就農情報を発信しています。 <https://www.nounavi-aomori.jp/>

### 農業者向けトップページ

(主なコンテンツ)

- 生産情報や気象等の情報提供
- 水稻生育予測機能
- メール配信やSNSによる情報発信



### 就農希望者向けトップページ

(主なコンテンツ)

- 就農支援策等の紹介
- 就農適性診断機能
- 先輩就農者へのインタビュー



## 農林水産業関係のWebサイト

あおもり産品情報サイト

**「青森のうまいものたち」**

<https://www.umai-aomori.jp/>  
「注目の商品」や「産地情報」、「あおもり産品販売店」など、情報満載です。



青い森林業アカデミー

<https://aoimori-ringyo-academy.com/>

「青い森林業アカデミー」の取組や研修生の募集案内等を掲載しています。



あおもり漁師へのみち

**一あおもりで漁師目指そうー**

<https://www.aomoriryoushi.jp/>  
漁業者になる方法や実際の漁業者の声、求人情報などを紹介しています。



あおもり「みんなの食堂」と農林水産業のネットワークウェブサイト

<http://shokudou.aosyakyo.or.jp/>  
共食の場である「みんなの食堂」の活動や食材マッチング実績等の情報発信をしています。

グリーン・ツーリズムを体験してみませんか

<https://www.pref.aomori.lg.jp/shoshiki/nourin/kozoseisaku/green-tourism.html/>

青森県内のグリーン・ツーリズムの紹介や、各受入団体等のホームページへのリンクにより、イベント、体験スポットなどの情報を提供しています。

あおもり食産業支援サイト

<https://www.aomori-shokusangyo.com/6jisangyou.html/>  
食産業関連の情報提供や、事業者が相互に情報交換ができる場を提供しています。



# 13 農林水産業の普及指導拠点

○「攻めの農林水産業」を推進するため、県内の各地域県民局地域農林水産部が普及指導活動を行っています。

## 東青地域県民局地域農林水産部

### 農業普及振興室

〒030-0861 青森市長島二丁目10-3 (青森フコク生命ビル内)  
TEL 017-734-9961 FAX 017-734-8305

### 東青地方水産事務所

〒030-0901 青森市港町二丁目22-4  
TEL 017-765-2520 FAX 017-765-2521

## 下北地域県民局地域農林水産部

### 農業普及振興室

〒035-0073 むつ市中央一丁目1-8  
TEL 0175-22-2685 FAX 0175-22-3212

### 下北地方水産事務所

〒035-0073 むつ市中央一丁目1-8  
TEL 0175-22-9732 FAX 0175-22-8626

## 西北地域県民局地域農林水産部

### 農業普及振興室

〒037-0046 五所川原市栄町10  
TEL 0173-35-5727 FAX 0173-33-1345

### 農業普及振興室つがる分室

〒038-3146 つがる市木造桜木9-1  
TEL 0173-42-2222 FAX 0173-42-2272

### 西北地方水産事務所

〒038-2761 鱒ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸384-37  
TEL 0173-72-4300 FAX 0173-72-7251

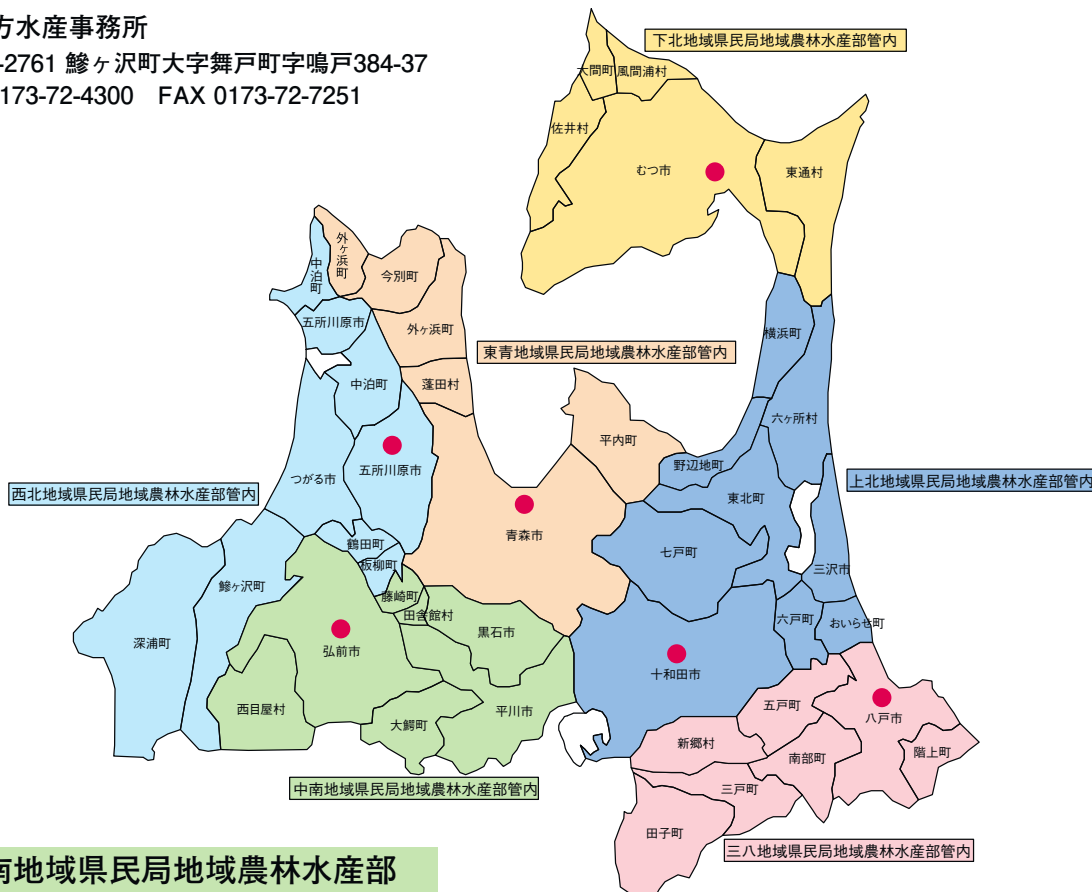
## 上北地域県民局地域農林水産部

### 農業普及振興室

〒034-0093 十和田市西十二番町20-12  
TEL 0176-23-4281 FAX 0176-25-7242

### 農業普及振興室三沢分室

〒033-0024 三沢市東岡三沢一丁目1-7  
TEL 0176-53-2498 FAX 0176-53-8539



## 中南地域県民局地域農林水産部

### 農業普及振興室

〒036-8345 弘前市大字蔵主町4  
TEL 0172-33-2902 FAX 0172-34-4390

### 農業普及振興室黒石分室

〒036-0522 黒石市田中82-9 (農林総合研究所内)  
TEL 0172-52-4335 FAX 0172-53-4114

## 三八地域県民局地域農林水産部

### 農業普及振興室

〒039-1101 八戸市大字尻内町字鴨田7  
TEL 0178-23-3794 FAX 0178-27-3323

### 農業普及振興室三戸分室

〒039-0134 三戸町同心町字同心町平54-7  
TEL 0179-23-3264 FAX 0179-23-3274

### 三八地方水産事務所

〒039-1161 八戸市大字河原木字北沼1-131  
TEL 0178-21-1185 FAX 0178-20-1108

# 14 令和4年度トピックス

年月日	主な出来事
2022年 4月8日、15日	横浜町で高病原性鳥インフルエンザが2例発生
6月～	令和3年のホタテガイの生産金額が2年連続100億円超え
7月 1日	みどりの食料システム法が施行
7月26日	県産にんにく新品種の名称を「青森福雪（ふくゆき）」と命名
8月3日～	県内初の線状降水帯が津軽地方で確認、県内全域で大雨被害が発生
8月 5日	令和2年度食料自給率が公表
9月29日	令和3年産りんごの販売額が、8年連続1,000億円超え
10月29日	県産米新品種「はれわたり」県内販売開始
11月18日	全国初の土地改良区青年部組織「あおもり水土里ネット青年部会」が発足
11月20日	横浜町で高病原性鳥インフルエンザが発生
11月30日	「あおもり藍」が地域団体商標に登録（県内14件目）
12月～	りんご輸出額が9年連続100億円超え
12月15日	三沢市で国内過去最多の高病原性鳥インフルエンザが発生
12月27日	令和3年農業産出額が公表、7年連続3,000億円超え
2023年 1月 5日	大間産クロマグロが豊洲市場の初競りで最高値3,604万円で落札
2月 3日	令和4年の日本の農林水産物・食品輸出額が、2年連続年間1兆円超え
2月28日	日本穀物検定協会が食味ランキングを発表し、「青天の霹靂」が8年連続で特A評価を取得

## 表紙写真

- ① りんご園地での農作業体験
- ② 青い森林業アカデミー
- ③ ホタテガイ水揚げ



食卓晴れる、あおもり米。  
はれわたり

あおもり米新品種「はれわたり」  
令和5年秋、全国デビュー!!

日本穀物検定協会  
令和4年産米食味ランキング 特A取得  
※参考品種



県産品PRイメージキャラクター  
「決め手くん」

令和5年4月  
発行 青森県農林水産部農林水産政策課  
〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号  
TEL (代表) 017-722-1111 (内線4982)  
(直通) 017-734-9457  
FAX 017-734-8133  
E-mail: nosui@pref.aomori.lg.jp  
県庁HP <https://www.pref.aomori.lg.jp>

